

# 日立営業所開設へ イノベーション エンジン機能備え対応向上

ステンレス・高機能合金流通のイノウエ（本社）東京都千代田区、井上浩樹社長は、茨城県日立市に来年1月1日付で日立営業所

を開設する。材料調達から加工までトータルでコーディネートするエンジンアラインク機能を持つ拠点として、日立地区の顧客への総合

的な対応力を強化することが狙い。1960年の創業以来、日立製作所グループと取引関係があり、「原点回帰の気持ちで

改めて頑張りたい。電機や重電、自動車など幅広い顧客に対し、設計など許段階からののつくりをサポートしていきたい。顧客を増やすというより、サービスの質を上げていく（井上社長）考え、営業所長は池田謙次常務取締役が兼任し、須藤哲也氏が所長代理・セールスエンジニアとして常駐する。

同社は2016年7月に日立倉庫を置き同地区へのデリバリーを強化してきたが、営業

は本社で行っていた。今回、エンジンアラインク機能を持った営業所とする事で、より付加価値の高いサービス提供を目指す。同社にとって初の北関東拠点となる。地域密着による営業強化策の一環でもある。

## 独バルブ展で手応え

### 3D造形製造の製品PR

イノウエは先月27日から3日間、独テュツセルドルフで開催された世界最大のバルブ展「バルブワールド」に出展した。岡野バルブ製造をはじめとする4社との合同出展で、イノウエは3Dプリンティングで製造したバルブボディを展示。井上浩樹社長は「同展では他にない展示で、来場者からは初めて見たラフォーチャー・ビジュエスだ。これから面白い分野」など好意的な反応をもらった。と手応えを語った。同社にとって初の海外展示会への参加で、海外の大手エンジンアラインクや化学メーカー、バルブメーカーおよび関連部材メーカーなど多様な来場者がブースを訪れるなど「非常に活気があった」（同）。展示したバルブボディは、日立全額の高耐食ニッケル基金金「MAT21」を金属粉末化し、金属積層造形に適用して製造したもので、半導体製造装置や化学プラントなど高

初の海外展示会への参加（右が井上社長）



展示製品は多くの来場者の関心を引いた。

い耐食性を求められる分野で成長が見込まれる。3Dプリンティングによるバルブボディ製造は世界的にもまだ本格的には実用化されていないと見られ、